

全国児童文化資料館探索（その1）

中京大学文化科学研究所児童文化研究グループ

本研究所児童文化研究グループは、過去4年間の研究の果りとして、論集『愛知の児童文化』と『愛知児童文化事典』をKTC中央出版より上梓した。幸いにも日本児童文学学会より地域研究の先駆として高い評価をうけ、特別賞を受けた。そのなかに愛知の児童文化関係施設があり、このたびこの施設を全国に広げ、資料調査を主目的に該当する主要施設を調査し、その一部の概要をまとめたものである。

（調査担当：酒井 敏、原 昌、磯部 孝子、山田 泉、坪井香保里）

巖谷一六・小波記念室	小さな絵本美術館、分館・八ヶ岳小さな絵本美術館
絵本美術館&コテージ森のおうち	ちひろ美術館、姉妹館・安曇野ちひろ美術館
エルツおもちゃ博物館	司文庫
えほん村	新美南吉記念館
大島町絵本館	日本玩具資料館
おかざき世界こども美術博物館	日本玩具博物館
神奈川近代文学館	日本土鈴館
軽井沢絵本の森美術館	箱根サン=テグジュペリ・星の王子さまミュージアム
金沢ヒューマン文庫	長谷川町子美術館
吉備川上ふれあい漫画美術館	浜田広介記念館
黒姫童話館	宮沢賢治記念館
けんぶち絵本の館	やなせたかし記念館
現代マンガ図書館	ユネスコ・アジア文化センター
小泉八雲記念館	ワイルドスミス絵本美術館
喬木村椋鳩十記念館	
高野辰之記念館	

巖谷一六・小波記念室 いわやいちろく・さざなみきねんしつ
(水口町立歴史民俗資料館内)

「文化の薫りがするまちづくり」をめざす水口町により町立歴史民俗資料館内に、1997年(平成9)に開設された。近代を代表する書家の巖谷一六と、その三男で児童文学の創始者と賛えられる小波の足跡に触れ、その業績を顕彰するためである。館内には、一六の書と、小波の著作と俳画関係資料などが展示されている。小波は、21歳のとき、博文館の「少年文学」の第一篇として『こがね丸』を発表し、それ以後膨大な数の「お伽噺」を発表、明治を代表する児童文学者となった。

ここには小波の雅印・書簡・俳画なども所蔵されている。

[所在地]

〒528-0005 滋賀県甲賀郡水口町水口5638

TEL. : 0748-62-7141

FAX. : 0748-63-4737

<http://www.town.minakuchi.shiga.jp/>

[アクセス] JR 東海道線「草津」駅下車、草津線にて「貴生川」駅下車、近江鉄道「水口城南」駅下車

[休館日] 月曜日

[入館料] 有料

[参考・引用資料] 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数

・記念室相当分 約150点(小波関係80点)

◆貴重資料 巖谷小波自画句賛掛軸、雅印、書簡50点

**絵本美術館&
コテージ 森のおうち** えほんびじゅつかんと
こてーじもりのおうち

児童文化を通して多くの人たちと豊かに集い合いたいという願いのもとに、酒井倫子が永年かけて収集した絵本・児童文学・研究書など約

5000点及び、絵本原画を有する個人美術館である。創設は1994年(平成6)で、「宮沢賢治の世界展」をはじめ、年に数回、企画展示を開催している。宮沢賢治の研究書及び、ルイス・キャロルの資料(訳書を含む)を多く所蔵している。子ども向けのイベントとしては、要望に応じて素語り、読み聞かせ、またはギャラリートーク、ブックトークなどこまめに行うなど、来館者との触れ合いを大切にしている。

美術館に隣接する〈ジョバンニのコテージ〉は、絵本のなかに入りこんだような素敵な空間で、森のなかの静寂と神秘さを楽しむことができる。

機関紙「森のおうちだより」(不定期)を刊行。
[所在地]

〒399-8301 長野県南安曇郡穂高町大字有明
2215-9

TEL. : 0263-83-5670

FAX. : 0263-83-5885

<http://www.morinoouchi.com/>

[アクセス] JR 大糸線「穂高」駅、または「有明」駅下車、タクシー約10分、長野道豊科インターから約13km

[休館日] 木曜日(祝日は開館、翌日休館)

[入館料] 有料

[参考・引用資料] 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約5,000点

原画・アンデルセン作、バーナデット・ワッツ
絵「マッチ売りの少女」(1983) クレパス、コンテ 7点
・グリム作、高野玲子絵「ヘンゼルとグレーテル」('96) 手彩色、エッチング 8点
・グリム作、デリア・カンセラ絵「シンデレラ」('97) ペン、インク、ガッシュ

6点

- ・グリム作、山本容子絵「白雪姫」(’92) エッチング、手彩色 12点
- ・トルストイ再話、バーナデット・ワッツ 絵、「くつやのマルチン」(’86) クレパス、コンテ 20点
- ・ルイス・キャロル作、デリア・カンセラ 絵「不思議の国のアリス」(’92) ペン、インク、ガッシュ
- ・ルイス・キャロル作「鏡の国のアリス」(’91) 木版 上記とあわせて19点
- ・宮沢賢治作、小林敏也絵「雨ニモマケズ」(’91) 木版 20点
- ・宮沢賢治作、高野玲子絵「どんぐりと山猫」(’89) エッチング 18点
- ・宮沢賢治作、高野玲子絵「注文の多い料理店」(’93) エッチング 11点
- ・宮沢賢治作、高野玲子絵「土神ときつね」(’92) エッチング 9点
- ・宮沢賢治作、油野誠一絵「貝の火」(’91) 水彩、クレヨン 16点
- ・新美南吉作、高野玲子絵「手ぶくろを買いに」(’93) エッチング 9点
- ・小川未明作、高野玲子絵「牛女」(’98) 手彩色、エッチング 21点

エルツおもちゃ博物館 えるつおもちゃほくぶつかん

旧東ドイツ、エルツ地方に伝わる伝統的木工工芸おもちゃを収集、展示する博物館で、ザクセン州ザイフェン村の村立「エルツ地方のおもちゃ博物館」の姉妹館として、土屋芳春により1998年(平成10)に開館された。約300年前に家内工業として木の工芸品が作られ、木の温もりや職人の手作りの味わい深さを伝え、それらを通してドイツ文化を紹介している。収蔵資料

には、「くるみ割り人形」や香を炊くための「パイプ人形」、ロウソクの熱によって回転する「クリスマスピラミッド」などが多数あり、来館者に、おもちゃの生まれた背景、風土、民族、歴史に触れてもらい、「おもちゃを通じて優しさ、創造力、教育、家庭の意義などをみつめ直す機会」を提供している。なお、年3回企画展を開催している。

機関紙『フォレスト・メッセージ』(季刊)を刊行。

(所在地)

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢 193-3

TEL. : 0267-48-2009

FAX. : 0267-48-2077

<http://www.museen.org/erz/>

(アクセス) 長野新幹線「軽井沢」駅、しなの鉄道「中軽井沢」駅下車、タクシー約8分、上信越自動車道碓氷軽井沢I.C.より約15分、小諸I.C.より約25分

(休館日) 火曜日(7月～9月は無休、冬期休館(1月中旬～2月末))

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約1000点(木工おもちゃ約900点、おもちゃ参考資料約100点)

◆貴重資料

- ・くるみ割り人形(1915年)他 150点
- ・クリスマスピラミッド(1940年)他 90点
- ・天使と坑夫のロウソク立て(1915年)他 30点
- ・パイプ人形(1960年)他 50点
- ・兵隊(1920年)他 30点
- ・ミニチュアおもちゃ 100点

えほん村 えほんむら

「0才から100才のこどものこころ」をテーマに、1984年（昭和59）に松村太三郎・雅子夫妻が、八ヶ岳南麓に小さな図書館として開設した。現在は発祥地から約1kmはなれた地に移転し、絵本の世界を体感できるミュージアムとなっている。館内には、村長であり本の造形作家である太三郎の作品や絵本作家である雅子の作品が常設展示されている。定例行事として、春には「ブックフェア」、秋には「八ヶ岳高原文学の旅」を開く。

機関紙『えほん村だより』（年8回）を刊行。

〔所在地〕

〒408-0041 山梨県北巨摩郡小淵沢町上笹尾
3332-426

TEL. : 0551-36-3139

FAX. : 0551-36-5356

<http://yatsugatake.net/ehonmura/>

e-mail : ehonmura@peach.ocn.ne.jp

〔アクセス〕JR 中央本線「小淵沢」駅下車、タクシー7分、中央自動車道「小淵沢」I.C. 7分

〔休館日〕水曜日

〔入村料〕有料

〔参考・引用資料〕当館リーフレット類

◆総収蔵資料数 約4,200点

（絵本約4,000点、原画約200点）

◆貴重資料

原 画・イワン・ガンチェフ 2点

・松村雅子 約100点

・松村太三郎 約100点

造形作品・松村太三郎 約50点

大島町絵本館 おおしまちようえほんかん

1988年（昭和63）の開町100周年記念に、進められてきた絵本文化推進事業の活動拠点の施設

として、大島町絵本文化振興財団により開設された。絵本を愛する人たちの活動を支え、「明日へつなぐ夢空間」としての役割を持つ。1万冊以上の絵本が開架され、ギャラリーでは絵本原画を見ることができ、絵本作りができるワークショップなどがある。また、毎月、絵本作家展を企画開催し、絵本に関する講演会なども開いている。

機関誌『絵本通信』（季刊）を刊行。

〔所在地〕

〒939-0283 富山県射水郡大島町鳥取50

TEL. : 0766-52-6780（代）

FAX. : 0766-52-6777

<http://www.ijinet.or.jp/ehonkan/>

e-mail : ehonkan@po.ijinet.or.jp

〔アクセス〕JR「高岡」駅より車で20分、JR「富山」駅より車で30分、JR「小杉」駅、「越中大門」駅より車で5分、北陸自動車道「小杉」I.C. より車で10分

〔休館日〕月曜日（祝日の場合、翌日）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 13,000点

◆貴重資料

・ユゼフ・ウィルコンの絵本原画 114点

・世界のしかけ絵本 173点

おかざき世界子ども美術博物館 おかざきせかいこどもびじゅつほくぶつかん

子どもたちに美術の分野で国際的な視野を与え、創造的意欲と才能を引き出すことを目的とした施設で、1985年（昭和60）に岡崎市と愛知県によって開設された。美術館の機能を「考える」「見る」「作る」の三つに分け、各ゾーンに関連づけた参加型美術博物館でもある。収蔵資料ではとくに世界116か国の児童画約55,800点

や、ピカソ、モネ、ロートレック、山下清、伊東深水、平山郁夫などの10代の作品約230点が特徴となっている。館内にはこうした絵の展示のほか、世界の教科書や絵本、民芸品や玩具などが備えられている。また併設の造型センターには、親子で創作活動ができる4つの教室（絵画・工作・EB アート・粘土）がある。定例行事として、東海4県（愛知、岐阜、三重、静岡）の子どもを対象に、児童画応募による「リトルアーティスト」展を毎年開催、テーマに基づく企画展を開催している。

〔所在地〕

〒444-0005 岡崎市岡町字鳥居戸1-1

TEL. : 0564-53-3511

FAX. : 0564-53-3642

〔アクセス〕JR「名古屋」駅より名鉄にて「美合」駅下車、タクシー5分

〔休館日〕月曜日（祝日の場合、翌日）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館リーフレット類、『愛知児童文化事典』（KTC 中央出版、2000年刊）

◆総収蔵資料数 57,000点

◆貴重資料

絵画・馬上の二人の兵士 トゥールーズ・ロートレック（16～17歳）1881年 1点
・椅子に座る少女 パウル・クレー（18～19歳）1898～99年 1点
・踊り子 パブロ・ピカソ（19歳）1901年 1点
・源義経 平山郁夫（14歳）1944年 1点
・八幡様のお祭り 山下清（14歳）1936年 1点
・庭 山下清（14歳）1936年 1点
・日本の児童画 42,999点
・世界の児童画（115か国）13,458点

神奈川近代文学館 かながわきんだいぶんがくかん

明治期以降の日本近代文学の専門図書館として、高台の港の見える丘公園に1984年（昭和59）に県立施設として開館。（助）神奈川文学振興会が運営。近代作家・詩人たちの原稿・書簡などの直筆資料をはじめ、文学書、文芸雑誌などを収集・整理・保存し、総収蔵数80万点。これらの資料はおもに文学者ならびに遺族からの寄贈によっている。児童文学は収集方針の柱の一つで、おもな収蔵資料は、藤田圭雄、滑川道夫、関英雄、那須辰造、小林純一、内山賢次、石川光男、高垣眸、井上光二、蘭郁二郎など、児童文学の作家や研究者の旧蔵書、原稿、遺品などが中核となっている。児童文学関係書の収蔵数は約8万冊、児童雑誌約1,000タイトルにて、約18,000冊となっている。資料種別としては自筆原稿・草稿・ノート・書簡・絵画・筆墨・遺愛品などの特別資料と、図書、雑誌類とに分かれ、原形保存に努めている。なお、展示館では、文学をテーマとして企画展を開催しているほか、講演会・朗読会・映画会・人形劇などが開かれ、いずれも文学に親しむ好機会として迎えられている。

機関紙『神奈川近代文学館』（季刊）を刊行。

〔所在地〕

〒231-0862 横浜市中区山手町110

TEL. : 045-622-6666

FAX. : 045-623-4841

<http://www.kanabun.or.jp>

e-mail : soumu@kanabun.or.jp

〔アクセス〕JR「横浜」駅より市バス20系統「港の見える丘公園」下車、JR根岸線「石川町」駅下車20分

〔休館日〕月曜日

〔入館料〕有料

(参考・引用資料) 当館リーフレット類

◆総収蔵資料数 約80万点(内児童文学関係資料8万点、児童雑誌912タイトル17,871点、児童文学・文化研究文献670点)

原稿・原画

- ・芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿 1点
- ・竹山道雄「ビルマの豎琴」原稿 1点
- ・高垣眸「豹(ジャガー)の眼」原稿 1点
- ・清水良雄ほか「赤い鳥」表紙原画 多数
- ・出開美千子「赤とんぼ」表紙原画 1点
- ・「赤とんぼ」「コドモノクニ」ほか、掲載諸家原稿
- ・山田耕筈ほか「赤い鳥」発表童謡作曲原譜
- ・鈴木三重吉「欲ばり猫」原稿
- ・滑川道夫、藤田圭雄、関英夫、那須辰造ほか宛諸家書簡

初版本(明治期～昭和前期)

- ・古川正雄『絵入知恵の環』1870
- ・チャンブル著、福沢諭吉訳『童蒙をしへ草』尚古堂 1872
- ・渡辺温訳『通俗伊蘇普物語』渡辺温 1873
- ・ヴェルヌ著、川島忠之助訳『新説八十日間世界一周』川島忠之助 1878
- ・ヴェルヌ著、井上勤訳『月世界旅行』自由閣(発売) 1880
- ・文部省音楽取調掛編『小学唱歌集(初編)』文部省 1881
- ・『日本昔噺』(英文、縮緬本)長谷川武次郎 1886～
- ・ゲーテ原著、井上勤訳述『禽獣世界 狐の裁判』春陽堂 1886～87
- ・文部省音楽取調掛編『幼稚園唱歌集』文部省 1887
- ・巖谷小波『妹背貝』吉岡書籍店 1889
- ・ヴェルヌ著、森田思軒訳『冒険奇談 十五少

年』博文館 1896

- ・文部省編『教訓仮作物語』国定教科書共同販売所 1908
- ・アンデルセン著、上田万年訳『安得仙家庭物語』鍾美堂 1911
- ・古い児童雑誌(全揃いおよびぼぼ揃い)『幼年雑誌』『少國民』『幼年世界』『ハート』『赤い鳥』『コドモノクニ』『明日の児童』『新児童文化』『少國民文化』『少國民文学』『海軍』『赤とんぼ』『銀河』ほか

軽井沢絵本の森美術館

かるいざわえほんのもりびじゅつかん

欧米の絵本と原画を収集し展示する絵本の専門美術館。明治期以来、避暑地として、日本と欧米の文化が融合する「軽井沢」という地に、〈絵本文化〉の発信基地として1990年(平成2)に土屋芳春により開館された。閑静な森のなかに第1展示館(常設展示)、第2展示館(企画・特別展示)、ミュージアム・ショップ、図書館が独立して建てられており、毎年春と夏に企画展、秋、冬には収蔵作品を中心とした展覧会を開催している。収蔵資料は、児童図書・絵本約4,000点、肉筆原稿と原画約1,800点、絵本資料約1,000点、計6,800点を所蔵している。これらの資料に基づきさまざまな切り口で、グリム童話、アンデルセン童話、ファンタジー、動物、クリスマスなどのテーマを通し、絵本の文化を紹介し、さらに子ども向けのイベントとして、おはなし、絵本の読み聞かせ、ワークショップなどを行い、来館者との交流にも重点を置いている。

機関紙『フォレスト・メッセージ』(季刊)を刊行。

(所在地)

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢

182-1

TEL. : 0267-48-3340

FAX. : 0267-48-2006

<http://www.museen.org/ehon/>

〔アクセス〕 JR 長野新幹線「軽井沢」駅より車で約10分、しなの鉄道「中軽井沢」「軽井沢」駅より車で10分、上信越自動車道「碓氷・軽井沢」I. C. より15分

〔休館日〕 火曜日（7月～9月は無休、冬期休館1月中旬～2月末）

〔入館料〕 有料

〔参考・引用資料〕 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約6,800点（絵本約4,000点、原画1,800点、絵本資料1,000点）

◆貴重資料

原画・L. Leslie Brooke, *A Nursery Rhyme Picture Book* 3点

・Kate Greenaway, スケッチ（下書）2点

・Randolph Caldecott, *Bracebrige Hall* のためのスケッチブックより 10点

・Errol Le Cain, *Hiawatha's Childhood* 4点

・Michael Hague, *Peter Pan* 8点

・H. A. Rey, *Pretzel and the Puppies* 3点

・Alice & Martin Provensen, *The Glorious Flight* 3点

・Dušan Kállay, *Happy Birds Stories* 5点

・Cicely Mary Barker, *The Snowdrop Story Book* 1点

・Lisbeth Zwerger, *Rotkäppchen* 2点

絵本・J. A. Comenius, *Orbis Sensualium Pictus* (1777) 1点

・Thomas Bewick, *Bewick Gleanings* (1886) 1点

・Heinrich Hoffmann, *Der Struwwelpeter* (1848) 1点

・Arthur Rackham, *The Fairy Tales of the Brothers Grimm* (1900) 1点

・Arnim & Brentano 編, *Des Knaben Wunderhorn* (1808～) 3点

・Richard Doyle, *In Fairyland* (1875) 1点

・Beatrix Potter, *The Tale of Peter Rabbit* (1902) 1点

・Walter Crane, *The Baby's Own Aesop* (1887) 1点

・M. Boutet de Monvel, *Jeanne D'Arc* (1896) 1点

・Warwick Goble, *The Water-Babies* (1909) 1点

金沢ヒューマン文庫 かなざわひゅーまんぶんこ

（蒲郡市立図書館内）

1993年（平成5）、郷土出身の教育評論家金沢嘉市の遺族から寄贈をうけ、蒲郡市立図書館のコーナーに「文庫」を開設、人間の尊厳を重んじた嘉市の意志に添い、「ヒューマン文庫」と名づけられた。

金沢嘉市（1908～86）は、子どもの人権を重視し民主主義教育を実践した教育者で、'69年（昭和44）に小学校長を退職後、講演活動に従事、'78年（昭和53）には子どもの文化研究所長となって〈人権〉〈平和〉〈自然〉を主張。テレビ・ラジオにも教育評論家として出演した。

この文庫には、嘉市の著書ほか、子どものための口演童話台本や〈子どもニュース〉などの放送台本、嘉市自身の授業ノート、校長日記、講演記録、手紙などが収蔵されている。なお文庫開設とともに「金沢嘉市研究会」が発足、『会

報』(不定期)や「叢書」が刊行されている。

〔所在地〕

〒443-0041 愛知県蒲郡市宮成町1-1

TEL. : 0533-69-3706

FAX. : 0533-69-0999

〔アクセス〕JR 東海道線「蒲郡」駅より徒歩15分

〔休館日〕月曜日

〔入館料〕無料

◆総収蔵資料数 約2,500点

◆貴重資料 (金沢嘉市関係)

- ・口演童話カセットテープ 2点
- ・放送台本 23点
- ・授業ノート 14点
- ・日記 21点
- ・講演記録 69点
- ・書簡 26点
- ・肉筆原稿 976点
- ・自筆ノート (戦後史記録ほか) 8点

吉備川上ふれあい漫画美術館 きびかわかみふれあい
まんがびじゅつかん

漫画文化の情報の受発信および交流の拠点をめざし、1994年(平成6)に町立美術館として開館された。同町が地学の町であることから、施設はアンモナイトの化石をモチーフにしたデザインとなっており、漫画家の色紙やタイル画なども飾られている。名誉館長は、名誉町民である漫画家富永一朗で、1階には、富永一朗漫画廊がある。原画展示と愛用品、出版物などを常設している。また、漫画図書室には、田川水泡、岡本一平、島田啓三のマンガなど、戦前から現在のものまで所蔵されており、閲覧することができる。2階には、「ごろごろ漫画読書室」があり、子どもも大人も気ままに寝ころんで漫画が読めるように、広いスペースが設けてある。町民が一丸となってめざした美術館には、全国

から寄贈された漫画本約12万冊がある。昭和初期の希少な漫画や、外国漫画、絵本などが収蔵され、肩のこらないユーモアあふれた、大衆性の高い施設。なお、'93年より1コマ、2コママンガを募集し、「吉備川上漫画グランプリ」を授けている。

〔所在地〕

〒716-0295 岡山県川上郡川上町大字地頭1834

TEL. : 0866-48-3664

〔アクセス〕JR「岡山」駅より伯備線にて約50分、「備中高梁」駅下車、備北バスにて約30分、「地頭」下車

〔休館日〕木曜日(祝日の場合、翌日)

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕パンフレット、リーフレット類

◆総収蔵資料数 約12万点

◆貴重資料

雑誌・『月刊ガロ』(創刊号)(青林堂、1964) 1点

・『COM』(創刊号)(1967) 1点

・『ビックコミック』(創刊号)(1968) 1点

原画・富永一朗 かわかみ 雲海 1点

・富永一朗 かわかみ 新緑 1点

・富永一朗 吉備川上漫画グランプリ

テーマ作品 10点

・富永一朗 富永一朗漫画原画 上記以外他 79点

画集・富永一朗 富永一朗漫画集「一部ミステリー」他 日本芸術出版社 12点

葉書・富永一朗他 漫画家年賀状 1990~2001 3171点

図書・小 星：作・東風人：画『お伽 正チャンの冒険』七の巻 朝日新聞社 1点

・北沢楽天『楽天全集』①②③⑦⑨ アト

- リエ社1930～31 8点
- ・岡本一平『漫画の小説 上』先進社
1930 1点
- ・田河水泡『凸凹黒兵衛』（『婦人倶楽部』
付録）大日本雄辯會講談社 1933 4点
- ・田河水泡『のらくろ決死隊長』大日本雄
辯會講談社 1938 1点
- ・田河水泡『のらくろ武勇伝』大日本雄辯
會講談社 1938 1点
- ・大城のぼる『汽車旅行』二葉書房1942、
三版 1点
- ・島田啓三『冒険ダン吉 ジャングルの王
者』再建社 1948 1点

黒姫童話館 くろひめどうわかん

児童文学に関する研究と交流活動を通して地域文化の活性化を目的に、当時の信濃町長大草忠和によって、1991年（平成3）に開設された。この童話館は、黒姫山麓の雄大な自然環境を舞台に展開される「童話の森」の拠点となっており、地域にかぎらず全国からの訪問者を受入れている。近年では国際的にネットワークを広げることをめざしている。さらに'98年には絵画展示場の童話の森ギャラリーやいわさきちひろの別荘（アトリエ）を移築した黒姫山荘が併設された。所蔵資料の特徴としては『モモ』（1973）や『はてしない物語』（1979）で知られるドイツのミヒャエル・エンデの個人資料を多く有し、館内には自筆原稿、原画、遺品などが展示されている。また別の部屋には、信州の生んだ児童文学作家塚原健二郎、酒井朝彦、山室静などに関する資料をもとに、この地域の児童文学の歩みを紹介している。なお、年3回テーマに基づく企画展を開いている。年刊にて児童文学についての情報や評論を含んだ『童話の森通信』を

刊行。

（所在地）

〒389-1312 長野県上水内郡信濃町黒姫高原
3807

TEL. : 026-255-2250

FAX. : 026-255-2261

<http://www.avis.ne.jp/dowakan/>

e-mail : dowakan@avis.ne.jp

（アクセス）JR「黒姫」駅、信濃交通バス「黒姫高原」下車、シャトルバスにて5分、上信越自動車道信濃町I.C.より5分

（休館日）月末（祝祭日の場合、翌日）

（入館料）有料

（参考・引用資料）『童話館ニュース』『童話の森通信』

◆総収蔵資料数 12,713点（内児童書6,355点）

◆貴重資料

- ・ミヒャエル・エンデ自筆原稿 44点
「モモ」（原稿の一部）、「はてしない物語」（原稿メモ）他
- ・ミヒャエル・エンデ自筆原画 55点
「モモ」（挿絵原画）、「ジム・ボタン」（登場人物スケッチ）他
- ・ミヒャエル・エンデ遺品 3,011点
書簡、写真、手製人形、コレクション（パイプ、カメ、化石、面）他
- ・各国翻訳書（エンデ）
- ・山室静寄贈書 1,000点
- ・酒井朝彦寄贈書 516点
- ・塚原亮一寄贈品 770点
- ・斉藤隆介色紙 18点
- ・信州児童文学会 『とうげの旗』挿絵原画
22点
- ・信州児童文学会 『とうげの旗』自筆原稿
192点

- ・信州児童文学会 『とうげの旗』 書簡 293点
- ・世界の絵本ポスター 約400点

けんぶち絵本の館 けんぶちえほんのやかた

剣淵町の旧役場庁舎を〈ふるさと創生資金〉により改修し、「絵本の館」として1991年（平成3）に、町立として開館された。絵本による町づくりを目的とし、絵本・原画などを通して、子どもの教育、地域の教育を考え、国際的な視野から地域の文化振興をはかるとともに、人と人とのふれあいをつくる場としての役割を果たしている。世界の絵本、約26,000冊を有する絵本図書館をはじめ、絵本原画収蔵館、絵本原画展示室、ギャラリーなどを併設。子ども向けのイベントとして、おはなし会、創作教室、工作教室などを毎月開催。また本の貸し出しについては、町内だけでなく、全国からの来館者にも行っている。なお、「けんぶち絵本の里大賞」を設け、すぐれた絵本の創造と普及にもつとめる。

機関紙『絵本の里から夢発信』（月刊）を刊行。

（所在地）

〒098-0322 北海道上川郡剣淵町市街地本町

TEL. : 016534-2624

FAX. : 016534-3345

<http://www.eolas.co.jp/ehon/>

（アクセス）JR 函館本線「旭川」駅より、宗谷本線「剣淵」駅下車、徒歩2分

（休館日）水曜日

（入館料）無料

（参考・引用資料）当館パンフレット、リーフレット類

◆総収蔵資料数 28,000点（絵本25,983点、児童図書1,437点、研究書500点、原画400点、紙芝居200点）

- 原画・海月清則「こうしがうまれたよ」22点
- ・小林 豊「はるふぶき」19点
- ・池田良二「馬を洗って…」11点
- ・小池暢子「いちばんはじめのクリスマス」13点
- ・田島征三「ジャックと豆のつる」18点
- ・A. E. キリキャン「くまの王子」18点
- ・S. バリュベネ「白鳥のおきさき」12点
- ・清重伸之「びんちゃん」シリーズ 46点
- ・田中 稔 油絵 13点
- ・池谷陽子「こうしがみつけた」17点
- 〃 「はるおのいえで」19点
- ・K. S. アバーエフ「美しいお姫さまとかしこい大臣」18点
- ・カバリョーフ「おぼけのパパヤガー」12点
- ・まついのりこ「どんぐりひろばの12つき」13点、「たなばたこびとのおはなし」20点
- ・吉田遠志 木版画 5点

現代マンガ図書館 げんだいまんがとしょかん

（内記コレクション）

マンガを庶民文化としてとらえ、その資料収集・整理・保存を目的として、1978年（昭和53）11月に内記稔夫により開館された。当初内記の個人蔵書27,000冊と全国の貸本屋から寄付された本3,000冊の計約3万冊ではじまったが、その後増えつづけ、単行本と雑誌を併せて現在16万冊に達している。とくに当館が誇る蔵書は、昭和30年代に出された「貸本漫画」で、このなかには現在活躍中のベテラン作家のデビュー作や初期の作品も多く含まれ、資料的価値が高い。所蔵雑誌には『ガロ』『COM』『ビッグコミック』などが創刊号から揃い、その他の雑誌も現

在から30年分、遡ることができる。’97年には、その設立と運営に対し、第1回手塚治虫文化賞・特別賞を受けている。

〔所在地〕

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565

ビルデンスナイキ2F

TEL. : 03-3203-6523

FAX. : 03-3205-0910

<http://www.naiki-collection.com/>

〔アクセス〕東京駅より地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅下車徒歩5分、地下鉄東西線「早稲田駅」下車徒歩8分

〔休館日〕火、金曜日（開館時間12:00～19:00）

〔入館料・閲覧料〕有料

〔参考・引用資料〕当館リーフレット（「現代マンガ図書館の歩み」）

◆総収蔵資料数 163,000点（内図書105,000点、雑誌55,000点、原画・色紙・ソノシート・アニメーション・セル画など約3,000点）

◆貴重資料

図書・短編集『現代漫画大観』（中央美術社、1928）9点

・田河水泡『のらくろ』（講談社、1933）8点

・島田啓三『冒険ダン吉』（講談社、1934）1点

・阪本牙城『タンク・タンクロー』（講談社、1935）1点

・手塚治虫『新宝島』（育英出版、1947）1点

・山川惣治『少年王者』（集英社、1947）7点

・倉金章介『あんみつ姫』（光文社、1951）1点

・福島鉄次『砂漠の魔王』（秋田書店、1954）

1点

・短編集『影』（日の丸文庫、1956～1965（推定））76点

・短編集『魔像』（日の丸文庫、1959～1965（推定））60点

・短編集『街』（セントラル出版社、1957～1961（推定））50点

・短編集『泉』（若木書房、1958～1964）53点

・短編集『虹』（金竜出版社、1959～1964（推定））40点

雑誌・『ガロ』（青林堂、1964～）383点

・『ビッグコミック』（小学館、1968～）784点

・『COM（のち、COM コミックス）』（虫プロ商事株式会社、1967～1973）76点

・『週刊少年サンデー』（小学館、1959～）1788点

・『週刊少年マガジン』（講談社、1959～）1852点

・『週刊マーガレット』（集英社、1963～）1476点

・『週刊少女フレンド（のち月刊化）』（講談社、1963～）938点

小泉八雲記念館 こいずみやぐもぎねんかん

東京帝国大学、市河三喜博士らにより小泉八雲（1850～1904）の顕彰事業として、記念館を建設することになり、1933年（昭和8）松江市の八雲旧居の隣接地に開館された。その翌年、松江に寄贈され、現在にいたっている。八雲は、島根県尋常中学校の英語教師として松江に居をかまえ、松江の風物、人情に好意を持ち、そこで多くの作品を著し、日本を広く世界に紹介した。児童文学との関わりでは『日本の子ども』

もの歌』や民話、伝説を英語で著した。八雲遺愛の文机、椅子、直筆の原稿、著書（初版）などが所蔵されている。建物は、木造平屋和風造りで、常設展示室、書斎、企画資料室を備えている。

〔所在地〕

〒690-0872 島根県松江市奥谷町322

TEL. : 0852-21-2147

FAX. : 0852-21-2156

<http://www.web-sanin.co.jp/ma.tsue/kankou/>

〔アクセス〕JR 山陰線「松江」駅より市バス・レイクラインにて「小泉八雲記念館前」下車

〔休館日〕年中無休

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約1,000点

◆貴重資料

- ・八雲直筆原稿（クレオール俗謡・大学講義用メモ・英語練習帳他）約20点
- ・書簡（藤崎八三郎宛絶筆他）約80点
- ・遺品（机、衣類、キセル望遠鏡他）約90点
- ・著書および関係図書 約800点
 - 『日本の子どもの歌』『怪談』『日本のお伽噺』（初版本）他
- ・関係資料（写真・子供の作品他）約150点

喬木村椋鳩十記念館 たかきむらむくはとじゅうきねんかん

椋鳩十（1905～87）は、こよなくふるさとを愛した児童文学者で、『荒野の野犬』『マヤの一生』などを著し、しかも「母と子の20分間読書」の提唱者であったが、その顕彰と、読書活動の拠点として、1992年（平成4）に〈椋文学里づくり〉事業に基づき村立施設として、夕日が映える高台に開館された。記念館には椋鳩十児童

文学、動物文学などに関する研究物や資料を展示しており、椋十の生涯、椋十の世界など、8部門に分けられ写真や解説パネル、映像により椋鳩十をしのぶことができる。併設の図書館には、椋十関係の本や資料が約2,000点収蔵されている。また記念館から生家に至るまで、「椋文学ふれ愛散策路」が作られており、椋十の書いた物語を思いだしながら散策することができる。子ども向けのイベントとして、読書感想文コンクールや、夕やけ祭などがある。

機関紙『椋鳩十記念館・記念図書館だより』（隔年）を刊行。

〔所在地〕

〒395-1101 長野県下伊那郡喬木村1459-2

TEL. : 0265-33-4569

FAX. : 0265-33-4599

<http://webvill.takagi.nagano.jp/tw.htm>

〔アクセス〕JR 飯田線「元善光寺」駅下車、タクシーにて約5分、中央自動車道飯田 I. C. より喬木村役場方面へ約20分

〔休館日〕月曜日、祝日、毎月の末日

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 25,166点（児童文学書15,126点、絵本7,603点、漫画859点、紙芝居1,149点他）

◆貴重資料（椋鳩十関係）

- ・小説原稿「森の少女」 1点
- ・童話原稿「かしこいたぬきとよい子ねこ」、「ふしきな二階」 2点
- ・随筆原稿「しぜんのうた」ほか 4点
- ・書・掛軸 2点
- ・扇面俳句 10点
- ・屏風任立 1点
- ・詞華等12枚 12点
- ・書額 4点

- ・色紙（名句） 15点
- ・俳句色紙 10点
- ・自費出版本「山窩調」（1933） 1点
- ・「金色の足跡」 *The Golden Foot Prints*（アメリカ版）1950年 1点
- ・「月の輪熊」ほか、中国語版 8点
- ・熊谷元一 絵「自然の中で」さし絵・原画 15点
- ・倉石隆 絵「森の少女」さし絵・原画 3点
- ・奈良坂智子 絵「ひかり子ちゃんの夕やけ」さし絵・原画 20点
- ・北島新平 絵「大造じいさんとガン」挿絵、原画 36点
- ・初出 雑誌「少年倶楽部」ほか 13点
- ・「マヤの一生」アニメ・セル画 22点

高野辰之記念館 たかのたつゆききねんかん

郷土出身の国文学者であり、作詞家・教育者である文学博士高野辰之（1876～1947）の業績を顕彰するために、1991年（平成3）に開設された村立記念館である。高野は26才の折上京、上田万年のもとで国文学を修め、後年児童文学にも関心をもち『家庭お伽噺』全50編をはじめ、文部省唱歌編纂委員として、「故郷」「朧月夜」「春の小川」「春が来た」などの作詞をした。いずれも、少年時の自然や風土、人びとなどへの望郷の思いがにじみでており、そうした情感を館内の音楽室のスクリーンから、しのぶことができる。また、高野は全国の校歌など100編以上も作詞している。この記念館には、高野の著作物や自筆原稿を多数所蔵。なお、高野に関する資料約2万点が、野沢温泉「はん山文庫」に移され保存されている。

〔所在地〕

〒389-2104 長野県下水内郡豊田村大字永江

1809

TEL. : 0269-38-3070

FAX. : 0269-38-3070

〔アクセス〕JR 飯山線「替佐」駅永田行「永田」下車すぐ。上信越自動車道豊田飯山I.C. 1分。

〔休館日〕月曜日、（祝祭日の翌日）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館リーフレット類

◆総収蔵資料数 約400点

◆貴重資料（高野辰之関係）

- ・学習ノート（小学生当時、明治20年～24年） 5点
- ・創作詩歌集（師範学校当時、明治29年） 10点
- ・往復書簡（家族、明治32～大正13年） 5点
- ・毛筆書（掛け軸） 13点
- ・毛筆書（額） 5点
- ・毛筆書（屏風） 2点
- ・研究著書（初版）

「歌舞音曲考説」（六合館、1915）「日本歌謡史」（春秋社、'26）、日本歌謡集成（東京堂、'42）ほか。

小さな絵本美術館 ちいさなえほんびじゅつかん

長野県諏訪湖の近くにあるりんご園のなかに1990年（平成2）に開館された。スイスの児童文学者ベッティーナ・ヒューリマンの「おとなのくせに本気で、あるいはたのしみに子どもの本とつきあっている人々は、いつかどこかでみんな知り合うものだ」をテーマに活動している。絵本作家のさとうわきこが主宰し、現在活躍中の画家、作家や、先人たちの作品も多数収集、収蔵している。常設展示では、絵本原画だけではなく、油彩、水彩などによるオリジナルタブロー作品もあり、当館ならではの作品に出会うことができる。また企画展示では、作家・画家

と直接交渉して作品展を催しており、日本ではじめて、フェリックス・ホフマン、ハンス・フィッシャーなどの作品展が開催された。子ども向けのイベントとして、工作教室、絵本セミナー、ギャラリートーク、おはなし会などを催している。なお、諏訪郡原村にある「八ヶ丘小さな絵本美術館」は、分館である。

機関紙『美術館だより』（不定期）を刊行。

〔所在地〕

〒394-0008 長野県岡谷市長地権現4-6-13

TEL. : 0266-28-9877

FAX. : 0266-28-9866

<http://www3.ocn.ne.jp/duntbaba/>

〔アクセス〕JR 中央本線「岡谷」駅よりタクシー8分、「下諏訪」駅よりタクシー6分、中央自動車道岡谷I. C. より7 km10分、諏訪I. C. より15分

〔開館期間〕3月上旬～12月23日

〔休館日〕火曜日（祝日の場合、翌日）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

分館・八ヶ岳 小さな絵本美術館

やつがたけちいさなえほんびじゅつかん

長野県岡谷市にある「小さな絵本美術館」の分館として、1997年（平成9）に、八ヶ岳のふもと原村に開館された。小川が流れ美しい白樺林のなかにあり、絵本原画、絵画、古い絵本などを所蔵している。大きな展示室を2つ、常設展示室を1つ持っていることから、1人の作家の作品100点以上を展示することが可能で、じっくりと作家と向き合うことができる。また、絵本が自由に読める図書館や、ティールームで自然を満喫しながら心ゆくまで過ごすこともできる。絵本セミナーなどのイベントも開催されている。

〔所在地〕

〒391-0115 長野県諏訪郡原村原山17217-3325

TEL. : 0266-75-3450

FAX. : 0266-75-3460

<http://www3.ocn.ne.jp/~auntbaba/>

〔アクセス〕中央自動車道諏訪I. C. より20分、中央自動車道諏訪南I. C. より15分、中央自動車小淵沢I. C. より25分、JR 中央本線「茅野」駅よりタクシー17分

〔開館期間〕3月20日～12月上旬

〔休館日〕火曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 本館620点（絵本原画420点、図書200点）、分館260点

◆貴重資料

原画・フェリックス・ホフマン『おおかみと七ひきのこやぎ』最終稿 鉛筆・水彩・ペン他 1点

- ・フェリックス・ホフマン「スイスの伝説」さし絵原稿 鉛筆・ペン・水彩 20点
- ・フェリックス・ホフマン「グリムの昔話」さし絵原稿 鉛筆・ペン・水彩 30点
- ・ハンス・フィッシャー「たんじょうび」下描き 1947年 インク他 5点
- ・ハンス・フィッシャー「こねこのぴっち」下描き 1949年 インク・鉛筆他 7点
- ・ハンス・フィッシャー「長ぐつをはいたねこ」下描き 1957年 鉛筆・色鉛筆 11点
- ・ハンス・フィッシャー スイス・チューリッヒ州教科書のさし絵 出版年不明 鉛筆・色鉛筆 14点
- ・ハンス・フィッシャー「るんぶんぶん」手描き絵本 出版年不明 1点

絵本・ヨゼフ・ラダ CHYTRÉ KMOTŘE LIŠCE
(きつねものがたり) 1937年 1点

・ヨゼフ・ラダ Mikešovi (くろねこミケ
シュのぼうげん) 1934年 1点

・ジョージ・クルックシャンク『ジョージ・
クルックシャンクの昔話文庫』1853年～
64年 4点

ちひろ美術館 ちひろびじゅつかん

いわさきちひろ (1918～74) の没後1977年 (昭和52)、その絵を愛する人びとと、ちひろの芸術を後世に顕彰するために、ちひろが没するまで22年間を過ごした自宅兼アトリエ跡に開館された。ちひろは『あめのひのおるすばん』『ことりのくるひ』などの絵本名作を生み、国内のみでなく国際的にも高く評価された画家であった。館内には、アトリエで実際に使われていた壁材や床材などを用いて、そのまま復元されている。なお、姉妹館として安曇野ちひろ美術館がある。現在、工事のため休館中。2002年秋に再オープン予定。

(所在地)

〒177-0042 東京都練馬区下神井4-7-2

TEL. : 03-3995-0820

03-3995-0680

(アクセス) 東京・西武新宿線「上井草」駅下車徒歩7分

(休館日) (入場料) 次記の姉妹館を参照

(参考資料) 次記の姉妹館を参照

(参考・引用資料) 当館リーフレット類。

姉妹館・安曇野ちひろ美術館 あづみのちひろ びじゅつかん

北アルプスから流れ出る乳川のそばに、ちひろ美術館 (東京) の開館20周年を記念して1997年 (平成9) に開館された私設の美術館である。

信州は両親の出身地のためにちひろがよく訪れた地である。館内には、「世界中の子ども、みんなに、平和としあわせを」という願いをこめ、子どもを生涯のテーマとして描いたちひろの作品と世界の絵本画家の作品が展示されている。子どもの部屋では、絵本を楽しんだり、本や布のおもちゃで遊ぶことができ、資料研究室 (申込制) では、絵本を研究する人達のために貴重本や資料が閲覧できるように開放されている。なお、年に4回企画展が開かれている。

機関紙『安曇野ちひろ美術館通信』(季刊) を刊行。

(所在地)

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

TEL. : 0261-62-0772

0261-62-0777 (テレホンガイド)

FAX. : 0261-62-0774

<http://www.chihiro.jp/>

(アクセス) JR 大糸線「信濃松川」駅よりタクシー3分、徒歩30分、長野自動車道「豊科」I.C. より約30分

(休館日) 水曜日 (祝日の場合、翌日)、ゴールデンウィークおよび8月は無休、12月1日～2月28日 (臨時休館あり)

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約19,000点

◆貴重資料 (いわさきちひろ作品原画約9,300点、世界の絵本画家作品9,700点)

原画・「チューリップとあかちゃん」1971年

・「緑の幻想」1972年

・「わらびを持つ少女」1972年

・「緑の風のなかで」1973年

・「ぶどうを持つ少女」1973年

絵本 (初版)

- ・『おふろでちやぶちやぶ』1970年
- ・『ことりのくるひ』1971年
- ・『戦火のなかの子どもたち』1973年

絵本画家作品 (世界25か国144人)

- ・クヴィエタ・バツオウスキー (チェコ)、エゼフ・ヴィルコン (ポーランド)、エフゲーニー・ラチョフ (ロシア)、エリック・カーン (アメリカ)、茂田井武、赤羽末吉、長新太ほか

歴史的資料

K・グリーンナウェイ『マリ・ゴールドガーデン』の版木、奈良絵本 (見本)、大織冠ほか。

司文庫 つかさぶんど

(豊橋中央図書館内)

1974年 (昭和49)、洋書事業に生涯を費した郷土出身の司忠 (元「丸善」会長) の寄付に基づき、豊橋市民文化会館内の市立図書館に洋書専門の司文庫を開設。'83年 (昭和58) の豊橋市中央図書館の新設とともに、文庫が同館2階に移った。

資料収集の軸を(1)絵本・教科書、(2)図鑑・美術書・百科事典、(3)古典とし、「司文庫基金」を基に、充実が計られた。現在、世界41か国からの絵本約7,800冊、80か国からの義務教育段階の教科書約9,800冊。

(所在地)

〒441-8025 豊橋市羽根井町48

TEL. : 0532-31-3131

FAX. : 0532-31-4254

<http://www.library.toyohashi-aichi-jp/>

(アクセス) JR または名鉄「豊橋西」駅下車20分、豊鉄バス牟呂循環線 (往完町経由)「中央図書館前」5分

(休館日) 月曜日

(入館料) 無料

(参考・引用資料)「司文庫図書目録1、2」(豊橋市教育委員会刊)

◆総収蔵資料数 約20,000点

◆貴重資料

外国絵本 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語の本

外国教科書 アジア諸国 (26か国)、ヨーロッパ諸国 (22か国)、アフリカ諸国 (9か国)、北米諸国 (2か国)、中南米諸国 (15か国)、大洋州諸国 (4か国) の本

新美南吉記念館 にいみなんきちかねんかん

半田市制55周年と南吉生誕80周年を記念して、1994年 (平成6) に半田市によって開設された。記念館は郷土出身の作家新美南吉 (1913~43) の代表作「ごん狐」の舞台となった中山に建てられている。

南吉は'13年 (大正2) に生まれ、'43年 (昭和18) に逝去、その短い生涯のなかで〈生〉を燃焼させ、すぐれた童話・童謡のほか、短歌・俳句・小説・翻訳などを残した。この記念館では南吉の文学作品のほか、南吉と関わりのある郷土の資料や国語教育資料などを収集、その業績をしのび、人びとが郷土性豊かな南吉文学に触れ親しむことを目的としている。記念館は、15,065㎡の敷地に、地上1階地下2階のグレー一色のユニークな建物で、背後には「童話の森」がひらけていて、里山の自然に親しみながら散歩できるようになっている。

館内の展示室には南吉の生涯が9つのブロックに分けられ、自筆原稿・日記・手紙・スパル

タノート・遺言状・代表的作品などが展示されている。

図書閲覧室には、南吉の全集・絵本・研究書のほか、南吉研究に役立つ資料があり、収蔵庫には約3,000枚の自筆原稿・日記・手紙・賞状などの遺品類が収蔵されている。

子どもたちとの関わりでは、四季を通じてのバードウォッチング、春の七草観察会、折り紙や人形の絵付け教室、「語りを聞く会」、彼岸花の咲く秋にはスタンプラリーなどが準備されている。毎年、「新美南吉童話賞」として創作童話を募集、定期的に『記念館だより』・『研究紀要』、新美南吉童話賞入選作品集の「赤いろうそく」などを刊行。

(所在地)

〒475-0966 半田市岩滑西町1-10-1

TEL. : 0569-26-4888

<http://www.nankichi.gr.jp/>

(アクセス) JR「名古屋」駅より名鉄河和線「知多半田」駅下車、タクシー10分、「半田口」駅下車徒歩20分

(休館日) 月曜日・第2火曜日

(祝日の場合、翌日)

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット、『愛知児童文化事典』(KTC 中央出版、2000年刊)

◆総収蔵資料数 6,500点 (内南吉関係815点)

◆貴重資料 (南吉関係)

- ・新美南吉童話・小説自筆原稿 188点
- ・新美南吉詩原稿 158点
- ・新美南吉戯曲原稿 12点
- ・新美南吉評論・随筆原稿 8点
- ・新美南吉翻訳原稿 22点
- ・新美南吉日記・ノート 17点
- ・書簡異聖歌宛 34通

・書簡歌見誠一宛 49通他

・賞状 14点

・卒業証書 3点

・辞令 6点

・英語教員免許状 1点

・背広・着物 3点

・印章 2点

・遺言状(弟益吉宛) 1点

・童話集『おぢいさんのランプ』挿絵原画、画棟方志功 12点

日本玩具資料館 にほんがんぐりしょうかん

玩具を〈生活文化財〉としてとらえ、系統的に収集、整理し、公開するために、1981年(昭和56)に佃光雄によって開館された。総収蔵点数は約16,500点で玩具13,000点を有している。とくに輸出全盛時代である第2次大戦後以降、日本国内で製造され、販売を目的として国内および海外で取り引きされた玩具が揃っており、製造年月も明確で、資料的価値が高い。館内には明治期から現代までの約8,000点の玩具が種類別・年代別に展示してあり、玩具のおおまかな歴史を辿ることができる。また、玩具の研究書も刊行、すでに佃光雄編集の『玩具の歴史と展望』('86)、『玩具の系譜』('88、'89)を発行している。玩具関係の研究書を800点以上所蔵していることも、この館の特徴である。

(所在地)

〒111-0023 東京都台東区橋場1-36-10

TEL. : 03-3874-5133

FAX. : 03-3871-3188

(アクセス) 東京の地下鉄・東武線「浅草」駅より徒歩約20分、地下鉄・東武線「浅草」駅より都営バス「南千住行(乙系統)」にて「清川一丁目」下車、徒歩約5分

〔休館日〕月、火曜日・第3水曜日

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆貴重資料

ジープ（占領下、日本製）フラフープ（'57）、ダッコちゃん（'60）、ママレンジ（'69）、野球盤 AM 型（'73）、ソニコンロケット（'57）、ブリキ・キャデラック（'54）、リカちゃん人形（初代'68～5代'92）、キャベッチ・パンチ・キッズ（'84）、オセロ（'73）、ルービック・キューブ（'80）、A型飛行機（明治期）、トンボ型飛行機（大正期）、プラスチック手彩色ままごと玩具（'49）、原子力艦ノーチラス号（'58）

日本玩具博物館 にほんがんぐはくぶつかん

忘れられつつある日本の郷土玩具を集大成し、後世に伝えるために、1974年（昭和49）に、井上重義により私設博物館として開館、1998年博物館相当施設に指定される。日本の郷土玩具、駄菓子玩具、世界130か国の玩具や人形などを白壁土蔵造りの6棟の建物に所蔵、展示している。また、観るだけでなく、おもちゃにさわって遊べるコーナーもあり、おもちゃと人間とのかかわりを考える場として工夫されている。第1号館は、季節毎の企画展示、第2号館は、草花あそびと手作り玩具、駄菓子屋の玩具、第3号館は、伝統手芸の世界、女の子の夢、遊びのコーナー、ミュージアムショップ、第4号館は、1階が、日本の郷土玩具、2階が、世界の玩具、第5号館は、らんぷの家、第6号館は、テーマ展示となっており、国内第一級のコレクション群を有し、総数7万点を越える資料は、わが国を代表する玩具博物館として知られている。1998年（平成10）に第20回サントリー地域文化賞を受賞。

機関紙『おもちゃと遊び』（年1、2回）を刊行。

〔所在地〕

〒679-2143 兵庫県神崎郡香寺町中仁野671-3

TEL. : 0792-32-4388

FAX. : 0792-32-7174

<http://www.japan-toy-museum.org>

〔アクセス〕JR「姫路」駅より播但線「香呂駅」下車、徒歩10～15分、播但有料道路、船津ランプより7分、中国自動車道・福崎インターより15分

〔休館日〕水曜日

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約75,000点

◆貴重資料

- ・日本の郷土玩具・小物玩具 30,000点
- ・外国玩具 25,000点（ドイツ約700点、中国約700点、メキシコ約700点、イタリア約500点、インド、ペルー、ブラジル各約300点、スウェーデン、デンマーク、イギリス、スイス、カナダ、ケニア各約100～200点他）
- ・クリスマス玩具 約2,000点
- ・音のする玩具 約2,000点

日本土鈴館 にほんどれいかん

全国各地で作られた土鈴、郷土玩具などを50年かけて収集し、私蔵していた遠山一男による私設展示館である。1986年（昭和61）に土鈴館をオープン、'88年（昭和63）に郷土玩具の展示館「やすらぎ館」、'95年（平成7）には「アジア民芸館」をオープンさせた。総数76,000点のうち、全国各地で作られた土鈴16,000点を所蔵、そのなかで戦前の貴重な土鈴など約4,000点が展示されている。社寺の授与鈴は、招福を願

う思いがこめられ、昭和初期の土鈴は、「敵国降伏」などと書かれていたり、ゼロ戦や戦艦の形をしていて、いずれも時代背景をうかがわせている。郷土色豊かなものもあり、多彩である。子どもたちにとっては、珍しく、楽しく、優しい土鈴たち、大人にとっては、懐かしい音を聴かせ、子どもの頃を思い出させてくれる土鈴たちに出会える施設である。

(所在地)

〒501-5124 岐阜県郡上郡白鳥町大島

TEL. : 0575-82-5090

FAX. : 0575-82-6506

<http://www.coralnet.or.jp/kinsan>

(アクセス) JR「岐阜」駅・長良川鉄道にて大島駅下車、15分、名鉄「新岐阜」駅より岐阜乗合バス(郡上白鳥行)にて「大島中」下車、東海北陸自動車道「白鳥」I.C.より5分

(休館日) 無休

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 76,000点(主要県土鈴数—福岡2,438点、京都1,452点、三重1,360点、滋賀1,338点、栃木1,106点、岐阜876点、愛知830点、奈良806点、神奈川676点他)

◆貴重資料

- ・日田土鈴(大分) 1点
- ・ムツゴロウ鈴(佐賀) 1点
- ・坊さんかんざし鈴(高知) 1点

箱根サン=テグジュペリ・星の王子さまミュージアム

はこねさんてぐじゅべり
ほしのおうじさまみゅーじあむ

『星の王子さま』の世界と、サン=テグジュペリの人生を紹介し、そこに込められたメッセージを伝えるために、1999年(平成11)に創設された私設のミュージアムである。展示ホールには、サン=テグジュペリの生涯を写真、作品や

遺品を展示し、人柄や『星の王子さま』の誕生した経緯なども紹介している。映像ホールでは、デジタルハイビジョンにより『星の王子さま』の世界を400インチスクリーンに映し出し、本のイメージをふくらませ、その深いメッセージに触れるようになっている。なお、敷地には彼の故郷などをファサードとして再現している。

(所在地)

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 909

TEL. : 0460-6-3700

FAX. : 0460-6-3701

<http://www.lepetitprince.co.jp>

e-mail : uwabami@lepetitprince.co.jp

(アクセス) 小田急電鉄「箱根湯本」駅より箱根登山バスにて約30分「川向・星の王子さまミュージアム前」下車すぐ、東名高速バス「御殿場インター」より約20分

(休館日) 不定休

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約3,000点

◆貴重資料

- ・第2次大戦中着用していた軍用コート 1点
- ・スプリングコート 1点
- ・愛用カバン 1点
- ・レジオンドヌール4等勲章メダル 1点
- ・各国の『星の王子さま』の本 207点
- ・原画レプリカ 14点
- ・喜劇本レプリカ 1点
- ・出版物 初版本 5点
- ・映像『星の王子さまは永遠に』 1点

長谷川町子美術館

はせがわまちこびじゅつかん

「サザエさん」の作家として有名な漫画家長

谷川町子(1920～92)が、姉の毬子とともに蒐集してきた美術品の公開を目的に、1985年(昭和60)11月に「長谷川美術館」として、世田谷区桜新町に開館した。そして'96年(平成4)、初代館長であった長谷川町子の死後、館名を「長谷川町子美術館」に改名した。

当館は、田園都市線桜新町駅の近くにあり、駅前から当館までの通称「サザエさん通り」桜並木がある。長谷川町子は、第二次大戦後まもなくから晩年までこの桜新町に暮らし、その漫画のほとんどはこの地から生まれた。鉄筋コンクリートの地上2階建てで、屋根や壁面の角がそれぞれ鋭角に突出した外観は、折り紙細工を思わせる造りになっている。

1・2階の展示スペースで、絵画や工芸品の展示をしている。日本画・洋画・彫塑・工芸品を合わせて約300点を収蔵し、主な収蔵作家は、ルノアール、シャガール、横山大観、岸田劉生、加山又造等。2階の「町子コーナー」と呼んでいる小さなスペースでは、漫画原画10,000点(「サザエさん」「エプロンおばさん」「いじわるばあさん」等)の中から、その季節にあった原画の展示、長谷川町子の愛用品、写真資料、執筆の傍ら創作した陶人形や漫画以外に水彩画、日本画等の展示の他、アニメ「サザエさん」のビデオ上映や磯野家の大型模型の展示などを行っている。

(所在地)

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-30-6

TEL. : 03-3701-8766

FAX. : 03-3701-3995

(アクセス) 田園都市線「桜新町」下車、徒歩7分、東急バス「桜新町1丁目」下車、徒歩1分。※駐車場なし

(休館日) 月曜日(祝日の場合、翌日)

(入館料) 有料

◆総収蔵資料数 約6,800点

◆貴重資料

著作

- ・『サザエさん』第1巻～68巻(1946.12～80.9) 68点
- ・『仲よし手帖』上下(1950.6～52.11) 2点
- ・『似たもの一家』第1、2巻(1950.5～52.1) 2点
- ・『別冊サザエさん』第1巻～5巻(1955.7～59.6) 5点
- ・『新やじきた道中記』上下(1956.7～58.1) 2点
- ・『町子かぶき迷作集』(1955.4) 1点
- ・『エプロンおばさん』第1巻～11巻(1958.7～66.3) 11点
- ・『いじわるばあさん』第1巻～6巻(1966.12～72.2) 6点
- ・『よりぬきサザエさん』第1巻～13巻(1963.5～81.10) 13点
- ・『サザエさんのうちあけ話』(1979.3) 1点
- ・『サザエさん旅あるき』(1985.11) 1点

まほろば・童話の里
浜田広介記念館

まほろば・どうわのさと
はまだひろすけいねんかん

故里を愛した童話作家浜田広介(1893～1973)の文学的功績を讃え、広介と児童文学に関する資料を蒐集し、保存・展示することにより、その業績の顕彰と児童文学の発展に寄与する目的で、1989年(平成元)に記念館が開設された。童話一筋に生きた広介は、「椋鳥の夢」(1919)、「龍の目の涙」('23)、「泣いた赤おに」('33)などの作品を残し、わが国の幼年童話の基礎を築いたが、作品には「愛と善意に満ちたヒューマニズム」が流れている。これを〈町づくりの心〉とし、記念館は「童話の里づくり」の拠点と

なっている。館内には、広介の愛用した品々や自筆原稿、色紙や初版本、書簡などが展示され、広介の人柄、創作活動、生活の様子に触れることができる。なお、2000年（平成12）に広介の生家が敷地内に移築された。

機関誌『館報』（年刊）を刊行。

〔所在地〕

〒992-0334 山形県東置賜郡高畠町大字一本柳
2110番地

TEL. : 0238-52-3838

FAX. : 0238-52-4588

〔アクセス〕JR 奥羽本線「高畠」駅より徒歩20分
〔休館日〕月曜日（祝日の場合、翌日）

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館リーフレット類

◆総収蔵資料数 13,761点（広介関係資料5,772点）

◆貴重資料（浜田広介関係）

著書

- ・『椋鳥の夢』（1921年、初版）
- ・『大将の銅像』（1923年、初版）ほか402点

掲載雑誌

- ・『良友』ほか 81点

直筆原稿

- ・「花びらの旅」ほか 6点
- ・書簡 110点

楽譜

- ・童謡「冬の蓑虫」他 10点

遺品 4点

- ・写真 88点
- ・新聞切り抜き 23点
- ・墨跡（色紙ほか）11点
- ・原画（作品の挿し絵）9点
- ・蔵書 4,721点
- ・研究書 298点

- ・ビデオ、テープ、CD、LP 23点
- ・その他 29点

宮沢賢治記念館 みやざわけんじきねんかん

わが国での最大の児童文学作家宮沢賢治(1896～1933)の関係資料を収集・保存・展示し、賢治の業績を顕彰するために、1982年（昭和57）、賢治の好んだ胡四王山の地に財団法人宮沢賢治記念会によって設立された。賢治はまた詩人であり、農業科学者でもあった。翌'83年には「求道の碑」「よだかの彫刻碑」が建てられている。記念館の基本理念には、「宮沢賢治の考えの基底にあるとみられる、“太初より未来永遠に至る、時空の大連鎖”に留意し、ドリームランドとしての岩手県にふさわしい記念館をめざし、宮沢賢治の文化遺産を現在と将来の世代に伝え、文化社会の発展に資する」と記されている。現在では、海外の研究者も生まれ、賢治の文学は、国際的になってきている。人びとを迎える館内の展示には、賢治をめぐる環境、信仰、科学、芸術、農村、賢治宇宙、資料など7部門に分かれ、賢治の人と作品をしのぶことができる。また、図書資料室は賢治の各種全集や海外での著作を含めた研究書など、約2,000点の図書数を備えている。なお隣接して子どもも閲覧できる「イーハトヴ館」がある。

〔所在地〕

〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36

TEL. : 0198-31-2319

FAX. : 0198-31-2320

〔アクセス〕東北新幹線「新花巻」駅より、岩手県交通バスにて「記念館前」下車、東北本線「花巻」駅より、岩手県交通バスにて「記念館前」下車、東北縦貫自動車道「花巻」I.C.より車で20分、「花巻」空港より車で15分

(休館日) 年末年始のみ

(入館料) 有料

◆総収蔵資料数 6,590点 (直筆原稿4,525点を含む)

◆貴重資料

自筆原稿 詩1,148点、童話1,961点、短歌219点、絵図(教材用)49点

絵画 「日輪と山」など15点

図書(初版本)『注文の多い料理店』、『春と修羅』2点

遺品 セロ、顕微鏡、採集標本など 75点

やなせたかし記念館 やなせたかしきねんかん

三つの館からなる町立の個人記念館美術館である。その一つがアンパンマンミュージアムで、香北町出身の漫画家やなせたかし(柳瀬崇、1919～)の多彩な創作世界を紹介する記念館で、1996年(平成8)に開館され、やなせたかしが名誉館長である。子どもたちが漫画を通して、豊かな発想と新しい文化をはぐくみ、アンパンマンのテーマである「愛と正義と勇氣」の心を伝えることを目指している。もう一つの「詩とメルヘン絵本館」は、やなせたかしが建物を町に寄贈、月刊誌『詩とメルヘン』を母体にしたイラストレーションを収蔵した美術館となっている。これらの記念館は、「詩と絵と漫画が好きだから」というやなせたかしの一途な思いから完成された。アンパンマンと『詩とメルヘン』に関する作品は、子どもにかぎらず、すべての人たちに楽しんでもらえる。3つ目の施設は別館で、多目的イベントホールとなっている。

機関紙『やなせたかし記念館ニュース』(季刊)を刊行。

(所在地)

〒781-4212 高知県香美郡香北町美良布1224-2

TEL. : 0887-59-2300

FAX. : 0887-57-1410

<http://www.i-kochi.or.jp/hp/anpanman-m>

(アクセス) JR土讃線「土佐山田」駅よりJRバス大柘線にて約25分、「美良布駅」または「アンパンマンミュージアム前」下車。高知自動車道南国I.C.より車で約35分

(休館日) 火曜日(祝日の場合、翌日)

(入館料) 有料

(参考・引用資料) 当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 不詳

◆貴重資料 (やなせたかし関係)

- ・アンパンマンアクリル原画 約70点
- ・アンパンマン絵本原画 約700点
- ・月刊「詩とメルヘン表紙原画」約300点
- ・詩額 約20点
- ・アンパンマン アニメ セル画

ユネスコ・アジア文化センター ゆねすこ・あじあぶんかせんたー

国際協力の促進と世界平和と安全への貢献というユネスコ理念に基づき、アジア・太平洋地域の国々に文化振興と相互理解に寄与するために、1971年(昭和46)に民間有志と文部省の協力によって、財団法人ユネスコ・アジア文化センターが開設された。子どもとの関連事業には、主にアジア・太平洋地域における文化啓発、図書開発、識字能力向上などの三つがあり、文化事業では互の情報交換と文化活動従事者の養成、図書開発事業では廉価での良書の供給と児童書の共同出版や、イラストレーター奨励のために「野間国際絵本コンクール」などを開催している。事業に参加している国々には、中国・韓国・フィリピン・ベトナム・タイ・カンボジア・インド・オーストラリア・ニュージーランドなど41か国に及んでいる。機関誌として、

Asian/Pacific Book of Development (英文)
『ユネスコ・アジア文化ニュース』(和文)を刊
行。

〔所在地〕

〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出
版会館内

TEL. : (文化事業課) 03-3269-4436

FAX. : 03-3269-4510

e-mail : culture@accu.or.jp

〔アクセス〕JR 中央線「飯田橋」駅下車、西口
より徒歩10分、JR 東京駅より地下鉄有楽町線
「飯田橋」駅下車徒歩10分

〔休館日〕土・日曜日、祝祭日

〔入館料〕無料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約30,000点

◆貴重資料

教科書 アフガニスタン、イラン、インド、イ
ンドネシア、オーストラリア、韓国、カンボジ
ア、スリランカ、台湾、中国、パプアニューギ
ニア、ブータン、ベトナム、マレーシア、ミヤ
ンマー、モンゴル、ラオスほか

わらべうた(楽譜) アフガニスタン、インド、
インドネシア、韓国、シンガポール、スリラン
カ、タイ、ネパール、パキスタン、バングラ
ディッシュ、マレーシア、ミャンマー、フィリ
ピン、ラオスほか

「アジアの昔話」(6巻) 各国語の翻訳本。

アジア・太平洋地域の児童書

ワイルドスマス絵本美術館 わいるどすみす
えほんびじゅうかん

イギリスの絵本作家ブライアン・ワイルドス
ミスの絵本原画を展示する私設個人美術館。作
家が活動を続ける南仏に似た風光明媚な伊豆の
地に、温かな絵本の世界を通じてやすらぎの空

間をとの願いから、1994年(平成6)に開設さ
れた。館長は『マザーグース』『クリスマスの
12にち』など、ワイルドスマス作品の翻訳を手
掛ける俳優の石坂浩二。ワイルドスマスは1930
年イギリス・ヨークシャー州生まれ、美術学校
を出た後、数学や音楽の教師を経て絵本作家の
道へ。1962年に処女作『ABC』でケイト・グ
リーナウェイ賞を受賞、「絵本界に色の革命を
起こした」とされるほどの鮮やかな色彩が特徴
である。これまでに70冊以上の絵本が出版され
ている。美術館は、ワイルドスマスのアトリエ
を思わせる2階建ての石造りの洋館で、250m²
の展示室では、約1000点の収蔵品のなかから、
常時60点ほどの絵本原画が展示される。また
キャンバス作品や年2回の企画展などで、ワイ
ルドスマスの魅力をさまざまな角度から知るこ
とができる。美術館の内外にはコパー(銅)ク
ラフト作家・井上正美による作品も飾られてい
る。ミュージアムショップでは日本で手に入る
ワイルドスマスの絵本が和書・洋書共にすべて
揃い、100種あるポストカードなどのオリジナ
ルグッズも充実している。

〔所在地〕

〒413-0235 静岡県伊東市大室高原9-101

TEL. : 0557-51-7330

FAX. : 0557-51-7331

<http://www.metm.co.jp/>

〔アクセス〕JR 伊東線「伊東」駅より一碧湖経
由伊豆シャボテン公園行きバスにて35分、伊豆
急線「伊豆高原」駅より伊豆シャボテン公園行
きバスにて23分「理想郷東口」下車すぐ。

〔休館日〕水・木曜日(春、夏休み、年末年始、
祝日は開館)

〔入館料〕有料

〔参考・引用資料〕当館パンフレット類

◆総収蔵資料数 約1,000点

◆貴重資料 (ワイルドスミス関係)

直筆原稿

- ・ワイルドスミス直筆メッセージ原稿 1994年
1点

原画

- ・「ワイルドスミスのABC」1962年 24点
- ・石坂浩二のマザーグース 1964年 35点
- ・「きたかぜとたいよう」1964年 17点
- ・「ワイルドスミスの123」1965年 17点
- ・こどものための聖書物語 1968年 100点
- ・パズル 1970年 15点
- ・Blue Bird 1976年 48点
- ・「お月さまのさんぽ」1978年 24点
- ・「じゅうたんはねこのもの」 1982年 7点
- ・「夢の国のちびっこバク」 1996年 16点
- ・「こどものためのイエス・キリスト物語」
2000年 20点
- ・Noah's Ark (ポスター原画) 1970年 1点

その他

- ・エッチング 1947～53年 5点
- ・ドローイング 1947～53年 3点
- ・テキスタイルデザイン 1947～53年 2点
- ・キャンバス画 Volcano 1980年代 1点
Spring Burst 1980年代 1点
Le Grand Duc 1980年代 1点